

【艦これ】提督「...平和に過ごしたい」大淀
「その1です」

盈月さん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

昔、水色の悪魔として恐れられていた提督は、執事として目立たず元帥の元で働いていたが、ある日、ブラック環境で違法労働を艦娘にさせていた前提督が憲兵に捕まったことにより、その代わりとして鎮守府に提督として配属されることに…

嫌がりながらも、ちゃんと仕事をこなす提督に対して、鎮守府の艦娘達は、提督に対してだんだんと惹かれていき…

これは、異名を持つ提督と艦娘達のシリアスありのドタバタコメディ劇場（の予定）です。

目次

- | | | |
|-----|---------------|----|
| 1 話 | (強制的に)着任しました! | |
| 1 | | |
| 2 話 | バイキングと不穏な世間 | 8 |
| 3 話 | デート権争奪戦 | 14 |

1話 (強制的に) 着任しました!

元帥「君には、今日付で転勤してもらおう」

提督「… 何故急に…」

元帥「実はな…君に行ってもらおう鎮守府、舞鶴鎮守府の艦娘達は…前提督にブラックな環境で働かされておつて、つい最近憲兵が前提督を逮捕したのだが、そのせいでその艦娘達は、あまり人をそんなに信じようとしなくなつてな…そこで、君に舞鶴鎮守府の提督になつて艦娘達の心を癒やしてほしいのだ」

提督「… ですが、何故水色の悪魔と恐れられていた俺にそんな事を？」

元帥「うむ… 数年間、君を執事として雇っていた分かつたのだ。君は強く、優しい人間だと!だから後任は、君しか居ないと思つてな!!」

提督「そんなに強く言われましても… 自分、執事の方がいいのですが…」

元帥「悪いが大将達と話し合つて決めた決定事項だ。今更変えることはできん」ユビパチン

憲兵「お呼びでしょうか!!」

元帥「そこに居る新米提督を舞鶴まで送つて上げなさい」

憲兵「承知しました!」ガシッ

提督「ちよっ!!まだ話が!」

憲兵「それでは失礼します」ペコ

提督「離せや〜〜!!」ズルズル

元帥「……お詫びと祝と称して、今度何か送ってやろうかのう……」

《提督輸送中》

憲兵「では、頑張れよ!」クルマデタイサン

提督「チツ……なんで提督なんだよ……俺はこれ以上、面倒くさい事に巻き込まれたくないのによお……」

提督「つつーか、もうすぐで春なのに寒くねえか?さっさと鎮守府の中に入るか……」

【鎮守府内】

提督「……見た目は普通の鎮守府と変わらねえな……」テクテク

提督「司令室は……ここか?」ガチャ

??「ようこそ、いらっしやいました。あなたが新しく着任される提督さんです……」

ね……」カオヲミテ

提督「……何やってるんだ……大淀姉……」

大淀「い、いや、ワタシハ、オオヨドデハ、ナイデスヨ」メソラシ

提督「……まさか義理の姉と、こんな所で再開するとは……」

大淀「ひ、人違いでは……？」アセダラダラ

提督「んじゃあ……頭に付けている。俺が昔、大淀姉に上げたのと全く同じ、カチューシャ取るぞ……」

大淀「!!……分かりましたから!!あなたが知っている大淀だつて認めるので!これだけは、取らないでくださいあい!!」

提督「つたく、正直に言えばいいのに……」

大淀「うっうっ……」グスツ

タツタツタツタツタツタツ

??「誰だ!司令室で騒いでいる奴は!!」ドビラバンツ

提督「ああ?」

大淀「グスツ……」

??「……貴様……大淀に何をした!」

提督「……カチューシャを取るって言ったただだが……?」

??「なに?……お前知っているのか!大淀が着けているカチューシャは、義理の弟から、進水日に祝いの品してもらつてからずっと大切に着けている物なんだ!それにも関わらず……!それを取り上げようとするのか!貴様は、!!」

提督「…… それ、俺が上げた物なんだが……」

??「…… 嘘をつくのならもつとマシな嘘を言うのだな!! 大体な…… 大淀が言っていた弟の姿はなあ、もつとかムグウ!」 オサエラレ

大淀「それ以上は言わないでくださいね?」 ゴゴゴゴゴ

??「…… はい……」

提督「てか、誰だお前……」

??「私か? 私は、大和型 戦艦 二番艦、武蔵だ!」

提督「おおいおい…… ここつて武蔵居たのかよ……」

大淀「戦艦は、日本艦に関しては大和以外全て居ますし、正規空母と潜水艦も同じです」

提督「…… 一通り名前は覚えてるが、顔まで覚えるとなるとクソダリいな……」 アタマガリガリ

大淀「なら一度、顔合わせしますか?」

提督「…… 仕方ねえ…… やるか……」

大淀「武蔵さん、皆さんを食堂に集めて頂いてよろしいでしょうか……?」

武蔵「うむ、承知した!」 ヘヤカラデテイク

提督「はあ…… 平和に過ごしたかったのに、何故こうなるんだろう……」

着任しました

大淀「皆さん、お集まりになりましたね？」

ナンダナンダ？

ミンナデアツマルナンテメズラシイ…

大淀「コホン… この鎮守府に、前提督に変わる新たな提督さんが着任されました」

エッ！

マタ、オナジヨウナコトヲスルノナラシズメテヤル!!

大淀「はいはい、彼はそんなことをしないので安心してください… では提督、一言どうぞ」

提督「… あく… 堅苦しいのは、嫌いだから、シンプルに言うぞ。お前ら出撃時とか、仕事してもらおう時以外、自由にしていいぞ。俺からは以上だ」

艦娘s「?!」

??「あのく質問いいかな？」

提督「ああ？別にいいが誰だ？」

??「僕は白露型駆逐艦2番艦の時雨だよ」

提督「時雨か…」

時雨「でね、質問と言うのは自由って基本的にどう云う意味かな？」

提督「… そのままの意味だ。秘書艦の時の勤務時と出撃してもらう時以外、お前らは、基本的に何してもいい。本読んでもいいし、寝てもいい、何なら外出許可書を出してくれたら買い物しに街に出てもいいぞ」

ザワザワ

時雨「つまり、僕たちをこれからブラックな環境で働かせないってこと?」

提督「ああ… 約束する」

時雨「っー… ありがとう」ペコッ

??「待つてください」

提督「ん?」

時雨「え?」

??「航空母艦、加賀です。貴方の今の言葉、本当に信じてもいいのでしょうか」キリッ

提督「っーと… ?」

加賀「私達はこの鎮守府に來た時から、前提督が逮捕されるまで、過酷な環境で働かされてきました。そのため、人が信じられないのです…」

提督「だから、俺が信じてもいい理由を証明しろってことか…」

加賀「はい…」

提督「… なら、俺がもし約束を破ったら… 容赦なく砲撃していいぞ」

艦娘 S 「?!?!」

加賀 「…??. な、なぜ…」

提督 「何故って、証明しろって言っただろ…」

艦娘 S 「……」アツケ

提督 「他は… なさそうだな、んじやあ、解散！」

【司令室】

提督 「…ふう… さて、どうしたものか……」

大淀 「…提も… いえ、弟くん！ 一体どう云う意味ですか?!」

提督 「そのままの意味だよ… 俺は命を張ってでも約束は守りたいからな」

大淀 「で、でも…」

提督 「…別に俺は、大丈夫だから… ね？」ニコツ

大淀 「うつ…」(笑顔が尊い!!!)

提督 「んじやあ… これから、仕事を頑張りますか」ノビー

大淀 「はい、私もサポートしますね！」

2話 バイキングと不穏な世間

提督「… やつぱり、何かしたほうがいいのかな…？」

着任して数日が立ったが中々、艦娘（一部除き）と打ち解けないため、何かいいアイデアがないか、考えていた。

大淀「… なら、バイキングなんてどう？」

提督「何故に…？」

大淀「だって、うちの鎮守府には、甘い物が好きな居るし… それに、皆さんお腹いっぱい食べたことがないので… だから！ 弟くんの料理を食べたらきつと皆さん、喜んで信じてくれますよ！」

提督「つても、間宮… さんだっけ？ その人に迷惑が掛かりそうなんだが…」

大淀「大丈夫です！ 私が言つとくので！」

提督「… 大淀姉がそこまで言うのなら…」

大淀「では、早速手配してくるね!!」ウキウキ

提督「お、おう…」

大淀（やった！ 弟くんの料理が久々に食べられる♪）スキップ

?? 「これは、面白そうな臭いがしますね」キラーン

《数分後》

大淀 「OK貰いました!!」ドビラバーン

提督 「… なら丁度終わったし、行くか…」

【食堂の厨房】

間宮 「は、始めまして、提督さん!!」

?? 「始めまして、航空母艦、鳳翔です」ペコッ

提督 「そんなに緊張しなくていいよ、気軽で頼む」

間宮&鳳翔 「は、はい!」

提督 「厨房借りるな…」

間宮 「あ、あの… 私達はどうぞすれば…」

提督 「休んでくれ… 俺一人で大丈夫だ」エプロンソウビ

鳳翔 「で、ですが…」

提督 「報告書で見たぞ、あんたらも酷い扱いをされていたって… 当分は俺が作るか

ら安心して休んでくれ」

間宮 「だ、大丈夫なんですか? お一人でこの鎮守府全員の飯を作るなんて… お身

体を壊してしまいますよ…」

提督「あゝ……そこに関しては、問題ねえ…… 大本部に居た頃、毎日、数百人分の飯作ってたからな……」レイゾウコガソゴソ

鳳翔「……ならお言葉に甘えて…… 休ませてもらいますね」ニコツ

間宮「て、提督さん…… ありがとうございます……」ペコツ

提督「別に当たり前だ…… 前の提督がゴミすぎたんだよ……」シタジユンビ

間宮&鳳翔「それでは失礼します」ペコツ

提督「ああ……」パシヤツ

提督「ん？」オトガシタホウヲミル

提督「…… 気のせいか……… んじゃあ、頑張りますか……」

??「顔がよく、根は優しそうな新米司令官のエプロン姿…… 売れそう……」ワルガオ
 《提督が料理を作り始めてから数時間後、夕食の時間》

艦娘s「……」ポカーン

綺麗に置かれた種類様々な料理に驚きを隠していない艦娘s

提督「…… 久々だから作りすぎたな」ノビー

村雨「こ、これってどうしたの……？」

提督「大淀姉から俺の料理をバイキング形式にして皆に振る舞つらどうだって提案があつてな…… お代わりもあるから、好きなだけ取って食べていいぞ」

?? 「す、スイーツとかもありますか?!」

提督 「あるけど…誰？」

?? 「香取型練習巡洋艦二番艦、妹の鹿島です。姉は、ここには、居ませんですけど…よろしくです」

提督 「嗚呼…よろしく」

提督 「つてか、早く食えよ…冷めるぞ」 チュウボウニムカウ

ワア… ドレモコレモ、オイシソウ…

ン…トテモ、オイシイデス!!

カシマサン、マタ、スイーツケイヲトツテキタンデスカ?!

ダツテ、オイシイモン!

ア…! オオヨドサンヨコドリシナイデ!!

ハヤイモノガチデス!!

提督 「楽しそうで何よりだ…」 ジブンノブンヲモグモグ

提督 「それに比べて…」 シンブンヲミテ

『荒れる内閣!!海軍の元帥思いとは!!』

提督 「元帥が艦娘達にある程度の人権を与えて欲しいって発言してから…国のお偉いさん方は、兵器に人権などいらん!とか…そもそも、艦娘達の自作自演では?と

か：アホなことを言ってるし：元帥ももう少し、発言を考えてほしいものだ：」

提督「つつーか：こっちの方が大切だろ：」メクリ

『〇×鎮守府に深海棲艦襲来!!』

提督「最近多いな：こようゆうの：まあ：俺らに一番関係あるとすれば：」ペ
ラッ

『刑務所から元提督脱走!』

提督「：舞鶴鎮守府の元提督じゃないといいが：」

【とある高級店】

??「で、あそこの〇×鎮守府の提督は、始末できたのか？」カチャカチャ

??「うくん：始末は、出来なかつたけどトラウマを植え付けたから海軍をやめさせられたよ」モグモグ

??「ふむ：あそこの提督は、俺の出世の邪魔だったからな：」ワインガハイツタグ
ラスヲミツメル

??「でも、もう十分地位は、あるでしょう：」月中将殿♪」

月中将「自分の地位を維持するのも大切なんだ：自分の地位を危うくする者は、早
めに摘むのが大切なんだよ：」グラスヲマワシ

??「ふーん：」カチャカチャ

月中将「で、そつちはどうなんだ？大将のお孫さん… 火大佐…」グビツ

火大佐「俺達の立場を危うくしそうな者を見つけたよ… 提督って言う奴なんだけど… どうやら、元帥の息がかかっているみたいなんだ…」

月中将「ほう…」

火大佐「そのせいで、一気に中尉になるんじゃないかって」

月中将「なるほど… また、頼めるか？」

火大佐「準備で長くなるけど… お安い御用さ、だけどこつちの約束も守ってね」

月中将「嗚呼… 分かっている」

火大佐「そうこなくつちや…」

3話 デート権争奪戦

金剛「へーい、提督、金剛型姉妹とお茶しましよー」ミギカラスリスリ

電「司令官さんのなどでないです」テイトクノヒザノウエカラアタマヲナデラレ

加賀「今度の演習のことでちよつと」ヒダリカラニゼロキヨリデヒツツキ

大淀「…」ピキツ…メガネニヒビガ

メガネへモウダメダ、オシマイダア

如月「…」ギリギリ↑今日の秘書艦

ハンカチへ（o^）／オワタ

提督「…」ムハンノウデシゴトヲスル

金剛「提督…」バーニング・ラブ、デース！」キスマチ

電「ふあゝ…」ナデナデトロ〜ン

加賀「私はこの編成がいいと思うの…」ムネグリグリ

大淀「…」パリーン

メガネへギヤアアアアア

如月「…」ブチツ!!

ハンカチへアーーーー！！！！！！

提督（何回か料理を振る舞っていたら、凄く懐かれた…）

提督（流石に、もう来ないよな？）

なお、提督の思いとは、裏腹に別の艦娘達が定期的に来て提督に甘えた。

余談だが、アイテム屋にハンカチと眼鏡が大量に置かれるようになった。

《数時間後》

提督「…」ドウジョウニテジシユレンチュウ

提督「…」パシャシャシャシャシャ

提督「…」クルツ

提督「…」シーン

提督「…」ケンジュツノケイコヲハジメル

提督「…」パシャシャシャシャシャ

提督「…」クルツ

提督「…」シーン

提督「最近多いんだよな… 気味が悪い… 今日とは終わりにするか…」コウイシツニ

ゴウ

提督「シャワー浴びないと臭いからな体洗わないと…」フクヲヌギシャワーシツヘ

提督（腰巻きタオル）「…」キユツ… シーン

提督「あれ？」キユツ、キユツ… シーン

提督「困ったな… 男子更衣室のシャワーは、ここしか無いし… あっそうだ。提督

兼客専用の大浴場があったな。あそこなら」フクヲキテムカウ

??「つよし！誘導成功！」

??「言われたことをしたんだから… 報酬の提督の写真ちゃんと渡してね」

??「もちろんですよ」ニタア

??「分かっているのならよろしい…」ニタア

【提督兼客専用大浴場】

カポーン

提督「ふう… たまには大浴場に入るのもいいな…」

提督「しっかし… 海が見えるとは、絶景だな…」カタマデツカリ

提督「… 兄貴もこんな風に暮らしてたのかな…」ボソツ

提督「… 兄貴…」ツ

提督「あッ涙が…」ゴシゴシ

提督「… よし、戻るか…」フロカラアガリ

??「これは、とても、気になりますね…」ヒョコ

《翌日》

提督「… 珍しく、元帥直々に手紙が送られてきたって思ったら…」イライラ

『〇〇水族館カップル無料券♡』ゴゴゴゴゴゴ

提督「いらねえ… とゆうか誰も行きたくないだろ… よし、後で廃棄しよう！… その前にトレーニング」タイシユツ

?? 「提督さくん戻ったっぽい」

時雨「夕立… そんなに慌てなく… て、も…」ツクエノウエニアルチケツトヲハツケンスル

夕立「あれ？ 提督さんいない… つばい…」同じく

時雨「… 夕立… 提督、これを誰に使うと思う？」ハイライトオフ

夕立「それは、もちろん… 夕立っぽい」ハイライトオフ

時雨「ふふつ、寝言は寝ていいなよ…」

夕立「それは、そっくりそのままお返しするっぽい」

電「ど、どうしたのです？」

時雨「あつ電ちゃん」ハイライトオン

夕立「何もないつばい」ハイライトオン

電「そうなのですね… 電は、司令官さん宛の手紙を届けにあつ…」

チケットへヤア

電「…………… 失礼する…………… なのです……………」タイシユツ

時雨&夕立「…………… チツ」

【一方提督は】

提督「くう……………」ウデタテフセチュウ

武蔵「ほら、ほら、しっかりとやらないと駄目だぞ……………」テイトクノウエニスワリ

吹雪「頑張ってください！」同じく

龍田「うふふ…………… 頑張って頂戴」ギソウヲソウビシスワツテイル

提督「き、きつい……………」アセダラダラ

金剛「……………」

榛名「……………」

大淀「……………」

叢雲「……………」

北上「……………」

白露「……………」

サンドバックス「へい、イヤナヨカンガ……………」

その後、サンドバックスが大量に壊れ後にサンドバックス破壊事件となり、新聞に取り上

げられた。

デート権争奪戦《開幕》

【司令室】

?? 「何か、いいネタ無いですかねえ」ガチャ

?? 「サンドバックは、表向きの用で…艦娘のみの新聞のネタが…」チケツトハツケ

ン

?? 「……………これですね」ニヤ

《次の日》

『提督がデート?! 選ばれるのは、誰だ?!』

艦娘 s 「……………」プルプル

艦娘 s (やるしか無い!!)

こうして、乙女達の戦いの火蓋が切られた。

【食堂】

提督 「……………今日の朝飯何だろ……………」ガチャ

艦娘 s 「……………」ジー

提督 「……………」ドアラシメル

提督 「……………」部屋で作って食べるか……………」スタスタ

バーン!! 金剛「テイトク! バーニング・ラブ!」バツ

?? 「金剛お姉さま待ってください!」タツタツタツ

榛名「勝つては、榛名が許しません!」バツ

?? 「ちよっ! 榛名?!」

提督「:. .」ダツ

金剛「テイトク待つのデース!」タツタツタツ

榛名「待ってください!」タツタツタツ

?? 「金剛お姉さま!」タツタツタツ

?? 「榛名!」タツタツタツ

提督「:. . ゆっくり飯が食べたいのに:. .」タツタツタツ

大淀「なら! 私と!」タツタツタツ

提督「無理」タツタツタツ

大淀「!!」ガーン

?? 「なら私は?」ビューン

提督「:. . 島風か:. .」タツタツタツ

島風「正解!」タツタツタツ

提督「悪いが断る」タツタツタツ

島風「(・ω・)」

大淀「あれえ？」

提督「また今度な」タツタツタツ

島風「うん！」パアアアア

大淀「姉なのに……お姉ちゃんなのに……私だけ対応が酷い……」ウツウツ

武蔵「なに騒いでいる貴様ら！」クワツ

全員「(武蔵(さん))」

武蔵「全く、朝から騒々しいぞ！」

提督「それは思う」

金剛?? 榛名?? 大淀島風「(……) セイザ

提督「とゆうか……お前ら、金剛の姉妹艦か？」

??「金剛お姉さまの妹分、比叡です。経験を積んで、姉さまに少しでも近づきたい

です」ピシッ

??「マイク音量大丈夫……？チエツク、1、2……。よし。はじめまして、私、霧島で

す」ピシッ

提督「よろしくな」

比叡霧島「はい！」

提督「っーか… なんていつもより、アタックが強いんだ…」

金剛榛名島風大淀「！」ギクッ

武蔵「これのせいじゃないか？」ピラッ

提督「ああ?… 提督がデート?! 選ばれるのは、誰だ?! ってなんだ、この巫山戯た記事は…」

提督「つてか… このチケツト捨てたぞ…」

金剛比叡榛名霧島大淀島風武蔵「は?」

様子を見に来た艦娘s「は?」

全員「はあああああ?!」

その日、街じゅうに艦娘達の声が響き渡ったとかわたらなかつたとか。

【火大佐の鎮守府】

火大佐「今度、ここに行ってもらおう」

扶桑「さ、流石にこの編成でここに行くのは…」

火大佐「命令だ! 最悪の場合、近くにある鎮守府に逃げ込め! 手配はしてある」

扶桑「… 分かったわ… 頑張ってくるわ…」タイシユツ

火大佐「… カチッ

火大佐「… フ」

火大佐「うまく行けば、邪魔な奴の排除に不幸艦姉妹の代わりに月中将の手配で大和型を手に入れられる：・当日が楽しみだ」ジユツ